

つながる、つながる、なにがつながる？

< るあんのフランスパリ日記 その① >

※「るあん」…音風景をキーワードに文化活動を行う「ビックママ・プロジェクト」から派生した音楽隊。2013 年、JAA 国際アコーディオンコンクール・パフォーマンスアンサンブル部門にて、桑山哲也賞受賞。翌年、横浜赤レンガ倉庫にて、アコーディオニスト coba 主催の「Bellows Lovers Night」に出演。一音一会を大切に、人とのつながりの中で、日々活動している。

HP:<https://bigmamaluann.wixsite.com/main>

ボンジュール！私たちは音楽隊「るあん」と言います。
メンバーは、アコーディオニストのエレガンス・カオルんに、ヴァイオリンのヒラリン、それから食いしん坊のスガちゃんに（マンドリン、フルート、歌）、カーリーなポニョポニョ・ヘアがトレードマークの私、セッキーです。
…と、こんな私たちですが、今秋 9 月にパリに行ってきましたよ。長年、いつもコンサートで、「ボンジュール」だの、「パリパリ」言って演奏してましたからね。やはり一度はパリの空の下で奏でたいと思っていました。ってなわけで、一致団結！夜の羽田空港から、エールフランス直行便でひとつ飛び。私たちは花の都パリへと赴いたのでした。

スガちゃんは、旅のお供に、いつも
アヒルのガーちゃんを
連れていく。



2019. 9. 21（土）
羽田空港国際線ターミナル。
22：55 発（東京→フランス）12h 40
アコーディオンは小型サイズのものなら、
手荷物として機内に持ち運べます。
エールフランスの場合ですけどね。



12 時間 40 分という長い空の旅を終え、私たちは夜明け前に人気の少ないシャルル・ドゴール空港へ着きました。空港の外は真っ暗で、空港の中は、まだあまりお店も開いていません。ツアーで来たわけでもなく、4 人ぼっちの私たちは、バゲージュにスーツケースを取りに行ったり、WiFi を現地モードにセットしたり。… 時間に囚われることもなく、あれこれしているうちに、空もうっすら白み始めてきました。辺りも次第に賑やかに。日本語ではない言語も、耳元でたくさん聞こえてきます。…そして私たちは、もうそろそろ例のチケット売り場が開くころと思い、目当ての万能カードを購入しにエントランス方面へ向かいましたよ。日本に pasmo カードがあるように、パリにも似たようなカードがあることを予め調べて知っていたのです。その名も「Navigo カード」といいます。これさえ手に入れば、パリ界隈の交通手段はバッチグー！（これからパリに行かれる方はご参考に。予め、日本で 3×2.5 の証明写真を撮って持って行くこと。週間パス「samaine」はわずか 27.8 ユーロで、メトロも RER「郊外電車」もバスも乗り放題。）

こうして私たちは Navigo 取得後、空港内の Mark & Spencer でサンドイッチを買い、ベンチで朝食。それから空港を後にして、スリランカ人のおじさまの運転するスーパーシャトルバスに乗りました。いざモンパルナスへ！宿泊先のホテルカクタスヘゴー、というわけです。

Ty Breiz

モンパルナスで有名な
カフェ。ガレットが
美味すぎる。



.2019.9.22（日）am4:35

フランス。
シャルル・ドゴール空港到着。
それからパリに移動。
のんびりモンパルナスでの一日。
ガレットで、まず腹ごしらえ。
夜は大きなピザをシェアして、セシボン！



9月23日。月曜日。

日中、ホテル・カクタス最寄り駅の Volontaires（ヴォロンテール）からメトロにのりました。モンパルナスで乗り換え、Saint Michel（サン・ミッシェル）へ。

2日後に、この辺りをるあんの演奏隊で練り歩くので、下見というわけです。ここは、Nortre Dum（ノートルダム）や Pont neuf（ポンヌフ）の近くです。

Saint Chapel（サン・シャペル）の教会で、美しいステンドグラスを観たり、マリー・アントワネットが絞首台までの日々を過ごした Conciergerie（コンシェルジェリー）の牢獄へも行きましたよ。

そして夜には、私たちは貴重な体験も。2日後の演奏時の拠点となっているシズさんのご招待で、Segar（セガール）にある UNESCO（ユネスコ）へ。私たちのパリ滞在と時を同じくして、なんと日本の四国から、ジャポニズム振興会がプロデュースする日本浄瑠璃が上演されていたのでした。るあんの4人とも、その素晴らしいマリオネットの世界を観劇するのは初めて。上演後には、ホワイエの方で寿司や日本酒をメインにした立食パーティーも用意されていて、私たちは夢心地な夜を過ごしたというわけでした。

9月23日。

セーヌ川沿いを散策する私たち。

25日に演奏で練り歩くための下見。

Le Mistral で、セッキーはハンバーガー。

夜はユネスコ日本浄瑠璃を堪能。



9月24日。火曜日。

新しい朝は、いつも2つ星ホテル、カスタスから始まります。エレベーターなし、狭い螺旋階段を上った4階に、私たちの小さなスイートルームがありました。2つ星ですから、鍵がかかりにくかったりだとか些細な不便はありましたが、なんだかアパートに住み始めた学生のようなワクワク感で面白かったです。外に出る時は、4階からグルグル1階に下りて、フロントのモハメッドに挨拶します。

「Bonjour！（ボンジュール！）」…モハメッドと私たちるあんは、もはやすっかり気の合う友だち同士です。

「今日はどこへ行くんだい？」

「今日はね、私たちはモンマルトルへ行くのよ」

そう、パリ滞在3日目の私たちは、サクレクール聖堂やテルトル広場で有名な、モンマルトルへと繰り出したのです。…モンマルトル。アーティストの集う街としても知られていますが、私たちるあんにとっても、そこは特別な街のような気がしていました。なぜかといえば、私たちが普段演奏するレパートリーの中には、この地を舞台にした映画「アメリ」の中の曲が何曲か入っていますからね。Yann Tiersen（ヤン・ティエルセン）のサントラは、アコーディオンをベースにした楽曲。中でも「LaNoyee（ラノワイエ・溺れる少女）」という曲は、私たちにとっても感慨深い思い出がありました。2013年に、JAA 国際アコーディオンコンクール・パフォーマンス・アンサンブル部門で桑山哲也賞を受賞した曲だったのです。とにかく、モンマルトル・ラノワイエ・るあん…のキーワードは、一連の鎖のように私たちの中ではつながっていました。

（次号へ続く）



モンマルトル。

日本に5年間住んでいた画家のムッシュと。

…さあ、明日はとうとうパリの街に演奏隊が繰り出します。次回予告写真をペーストして、次号へと続く。

